

ITUAJより

編集後記

ローカル5Gは、携帯電話事業者による5Gの全国サービスとは別に、地域や産業の個別ニーズに応じて、地域の企業や自治体等の様々な主体が、自らの建物内や敷地内でスポット的に柔軟に5Gを構築できる仕組みであり、IoT時代における新しい無線システムとして期待されています。

主な特徴としては、全国向け5Gサービスのエリア展開が遅れる地域において、5Gシステムを先行して構築可能となり、また、特定の用途に特化した設定、制御を行うことができ、工場でのロボットの制御など、超低遅延、高信頼性が要求される通信を実現するために柔軟に設定することが可能となります。加えて、セキュリティ管理が必要な情報をすべてローカルの閉域網に閉じることができるため、独立性の高いセキュアなネットワークを構築することが可能になる、といった点が挙げられます。

今、日本におけるローカル5Gはどう動いているでしょう。本号特集「ローカル5Gの展開」、ぜひご一読ください。

ITUジャーナル読者アンケート

アンケートはこちら https://www.ituaj.jp/?page_id=793

編集委員

委員長	亀山 渉	早稲田大学
委員	山口 典史	総務省 国際戦略局
〃	天野 佑基	総務省 国際戦略局
〃	伊藤 未帆	総務省 国際戦略局
〃	棚田 祐司	総務省 総合通信基盤局
〃	中川 拓哉	国立研究開発法人情報通信研究機構
〃	荒木 則幸	日本電信電話株式会社
〃	中山 智美	KDDI株式会社
〃	福本 史郎	ソフトバンク株式会社
〃	熊丸 和宏	日本放送協会
〃	山口 淳郎	一般社団法人日本民間放送連盟
〃	安原 正晴	通信電線線材協会
〃	中兼 晴香	パナソニック株式会社
〃	牧野 真也	三菱電機株式会社
〃	東 充宏	富士通株式会社
〃	飯村 優子	ソニー株式会社
〃	江川 尚志	日本電気株式会社
〃	中平 佳裕	沖電気工業株式会社
〃	小川 健一	株式会社日立製作所
〃	金子 麻衣	一般社団法人情報通信技術委員会
〃	島田 淳一	一般社団法人電波産業会
顧問	齊藤 忠夫	一般社団法人ICT-ISAC
〃	橋本 明	株式会社NTTドコモ
〃	田中 良明	早稲田大学

編集委員より

コロナ禍の標準化活動への影響は?

日本電信電話株式会社

あらき 則幸
のりゆき 則幸



編集委員を務めて約10か月が経ちました。これまで何回か編集委員会に出席し、本誌作成のプロセスを経験してきましたが、まだ十分に役に立っているとは言えず、毎月の企画を考え、記事の準備を進める他の編集委員や協会の皆様の企画力、段取りの良さに感服しています。さて、本巻末言を書いているのは非常事態宣言が発出されてから数週間後ですが、新型コロナウイルス感染症の感染者数はやや減少傾向にあるとはいえ、いまだに高い水準であり、予断を許さない状況と感じています。飲食店への時短営業の要請、リモートワーク推進や会食等の自粛など、社会・経済への影響が長期化していますが、標準化活動についても例外ではなく、これまで常識と思われていた慣習が大きく変わりました。

その一つが標準化会合のバーチャル会議での開催です。これまでは、難しい案件でのコンセンサス形成には、交渉やロビー活動のため対面での会合参加が必須と考えられてきましたが、現在はずべての国際会合がバーチャルで開催されていると言っても過言ではありません。これには一長一短があり、現地に行かなくても会合に参加できるメリットがありますが、時差の関係で1日の会合開催時間が限られることと、それによる審議の遅延など、制約も多くあります。また、ITU-TのSG会合では、プレナリ会合での審議進捗の遅れを取り戻すため、日本時間の深夜にまで及ぶレポート会合（中間会合）の開催頻度が大幅に増えており、参加者の負担が増加しているのではないかと考えられます。

また、会議の効率面の課題だけでなく、標準化活動に参画するにあたり、外国の参加者と直接会って議論すること、会合以外の場で交流することも、信頼関係を構築するための貴重な経験だと思います。近年標準化活動に参加された方、またこれから参加される方にとってもそのような経験の場を得られるように、新型コロナウイルス感染症の1日も早い終息を祈ります。

ITUジャーナル

Vol.51 No.3 2021年3月1日発行/毎月1回1日発行

発行人 山川 鉄郎

一般財団法人日本ITU協会

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-17-11

BN御苑ビル5階

TEL.03-5357-7610(代) FAX.03-3356-8170

編集人 岸本淳一、大野かおり、石田直子

編集協力 株式会社クリエイティブ・クルーズ

©著作権所有 一般財団法人日本ITU協会